新板
繪入

玉光碁般忠信

三之巻

へ遠13
1761
3

互光碁盤忠信

三之巻

第一

因縁

仙和い為九郎義経い嘘でない本名
因幡い桃灯のもんさいなる人妻
落ちるさい歌の様とまれ恋の戸籍
廓の門おちて年末れ兄の歌

第二　平家の根と堀小松殿父子代々の
百姓小判耳を拔て中出と落人
我子にて親をはぐくむ姫の孝行
因幡い結つて清屋〻元の屋敷

第三　街の金銀湧て来る小家は政の仁政
おまの狂女といふが佛の御乃ぬ興
子い二男の首械五戒と拔出家の逢ひ
沖の子ゆ姫親の目と出び男

一　仲忠い為九郎義経い嘘でない本名
栗田吉光土佐吉光同名
あるがおとく氏も下名を字もらいく。九郎義経か
まこも。名刹世男乃不寝為者。反歯の九郎や
矣いれし命い歯ろく猪眼。ひくをそんぐるおくにて。
長生きつくいつゆい全く女色ゆゆしい猥楽乃ろふ。
ひ下人通ゆまあるが拔が兄と平八郎義経。平年ゆお
この里れ柱女乃長孫の師がりふ杖び。弟ゆけて
帰る沉碎の。道もたぐあるぐ。ぐくふあげやの
下男が。扉ふろそろるる紙。何者ゆん法うけて。抛
灯撥巻ぬくぐれ。兄義経と関折ゆて無のさん。

おのおのこれひいきかぐつぼの歌とうたびて年月ををくりしがひごろ
きけいそぬ岩露といふ新歌新里にかりるこの歌度とくさ
まびぬさまとゆめーゆめいのの色るの色彩よりて関結ふせるる
もかるんとうひ岩露よあひ又と初春のきぬよ。ぬいくりし来い
なしたつまを思ひよりてを思せい歌のこれまい和でもしと。ぬ別稚
やてけるひ雪小来仏。全雪の思露ふて。漸一度とせるいぬ。
ぐりごめの初射面訓くこびげよあこ海ぬもめぐくぬいるい
たいこいひ知りかあよ奥とかーぬ雪のくれれりるぐるむげやの
方変も氣ぐうーびぬ。ぬ仏はくこと集ぐ。ぬ屋あーもるとぬ洞
をおーど行くれいぬ岩露ゆくるいぬ。ぬ雪ぬ洞をるいさていあまへ。ぬ雪ぬさん
のゆ金ぬれてきふくふぬいくふもハる新度のとい歌のるおにわる
けぐうぬひよみのるいーさびーい歌の日新とあひ二世と雪ぬ

中なるひぬ雪のれそぬくくれれるるはぬ世ぬれ来の歌ぬとで
けて我妻へとあるさんとこひ雪て世新里と雪びあ孤のぬんぐへ
うくられぬぐとれ桜安の月ぬ色ぬ。ぬ里のゆくさくけれさせのふるのるまだ。
廊ぐびれるるぐびけるの行るるれんとぐの氣くれるるぐくぬとて
せぐぬ人ぬ歌のるるぬもこれゆさびけるくい蕊分ぬるれ歌ぐこれ。
あるるこびんとこてくさぬでるーあるこれるびびけぐるの。
力けめてはさるの時はぐそれもゆるくふぬるのいゆるわぶぬをくるる
新さんと多くけまる方出入の男ぬるきるの人れぬこびぐるはてるるんも
ぐるくぬくけれぬ使るのまるすぐい氣まくそはぬぐーぬの
りきるわるぬ人ぬで新くまるの歌来ぬもハる氣度れの歌くこら
くれくるれんぬめぐ。なまへくるの氣度れの歌度れるくおくるるくぬれ
くもれぐびんぬいくくるぬくさ消ぬも入氣ぬくぬゆられぬ方

兄のくさき
弟とのくさき
やれ逃げよ

ともかくもだがおらが兄ハ大切の縁組と申聞く手紙ゟ親ごの遺言にて
て一日も早く(?)御とつゝの棚(?)にて此まゝゆへ別居と一
途(づ)に手紙(?)へ合せさんとの手にて此度へ帰りてこひとつ
ねがひ人への母(?)ゆゑてゆく(?)事を(?)はれ(?)をひて縁組
とけるや字(?)でも鬼(き)こたも見いくと我(が)ともおふ房おまるいと
ねハ添れいふぞやい此近(のべ)にく(?)合の此方の事ゆゑのやうさ
どうか思案さんの身へおとる訓(?)の殿(?)の鉄(?)をふる(?)ハあれ
(?)…はしで付つてのいゝる老後にからがりてと方(?)のさいごの
無(?)出(?)の…ぞ(?)も場でと思ひしぞまい代
表(?)…へ…てよい所へ…て置て…
さ…いゝるにて…いゝ…も…
あるで(?)…

思ひ…いかにも…での…にて…
…この…より…ちぞ(?)…ひて…
…おだやかに…世話…て…ば…
…方へ…にさ…の…の…
…の…すこし…で…
…かで…いつ…
…思ひ…もの…
…ゆかん…
…思ふ…
…
…
…の秘
…を…

りひてさげられぐ。[illegible]くゝ[illegible]の中さんハぐ五い行者のくゝれもの。
けゝ[illegible]とんて金仏をゑぐし。猫貧ゆれといひそれぐ。[illegible]を
押いぐ[illegible]の出花ゆのお[illegible]ようてぐ年月をたくて[illegible]。
只の歌の知る。ゆぐし[illegible]ぐ。[illegible]日[illegible]ぐ[illegible]。
ゆて来てゆるは。ずぐに金仏[illegible]情を[illegible]。刀[illegible]ゆんとゆ[illegible]。
縁ものはぐであゝく表踊るし。[illegible]ゆ[illegible]の[illegible]。[illegible]の
付先二七人ゝ[illegible]ものゝくと[illegible]ゆ[illegible]。
てゝぐ。[illegible]て金仏と及ぶ。姫ぐ[illegible]の八郎義[illegible]ゆ[illegible]氏の
ゝれとゝたちづき[illegible]ぐ。ぐ[illegible]ぐ。
ぐれいゝはまた。ゝゝゆゝぐ天[illegible]怪紙[illegible]ゆ[illegible]。
ゝ[illegible]ゆ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ぐ[illegible]。
ゝ[illegible]の[illegible]の[illegible]。[illegible]。[illegible]。
ゝ[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]。

されゝゝ[illegible]義経[illegible]さゝ[illegible]れぐ静い[illegible]ゝ入
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]を考て[illegible]ゝ[illegible]。
砕ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]。
[illegible]灯[illegible]。[illegible]。[illegible]。
ハテ[illegible]ゝ[illegible]。
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]。
ゝ[illegible]ゝ[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。

てくるとぢ切。二のたかい光露。肩先へ切つけ。ぶつりくりかとくるとれぬ。
今ぞ本情をせとどすぐくに切くるの。ひくよ寺の西新ちりとて
二礼のぐと年九くこ高れば。光こたと辛ひくへ。刺表の西五あと
ふくのかり出仕と初ぐまぢと。光高が幸あるくんくめてこくへ
つまぐくらたわ行と。ふぐくてぐ出ゆれくう

（二）　年家の根と塙小松の熱気古代出あ

根と代て松葉と枯ちこ子孫の光新あくうの。年あの一新意
くあ海の信よ浮て塙。刺表新と落ちひ水来のひ高水敬をひち
よ住ぐれ。塙くあの出代表よ。新の七濃くて出ゆ。雪高の子孫
くいくん人男ひ出ゆてい一人もくちどうの山くくん岸た。
平ちいくふよ見ぐと拝考せくれ。会歌邪人の長。新考ふ
新くんとをくふ。谷くと浪のくあ水ふくくくくそけと。

中ひくも小松の三信中れ紙光の出ふ古代出ふ。年もあ新白こ海
まひくくと平家の塙くひて松ワくれ。塙くて松人とる考よい。
ふくて白ふの表高くくぐ。不くくくれを高れくう。武府
二信社のやくくん。耳の出ひ三白と新くて。高高すぐくて紙ワ表の。
ふつ年ふいくきぐひ。高高如男ふのひくくん高高の信ふ西ひる
松の表ふつて信とのふ高ひくひ。白中二へ信ふくれとくく
ぐ。南中西の信ゆ。ひくくて松海くくれふと。奥へ中くくけ。いやくて女
と高ふくへ出ふれ。武表。信とのすのくい海ぐ表ふいう
ふ表で中ふくのけ。ぐくんいくぐくい高高白ひふる。
信人の松。安熟くくやふのくくくふ。武高の府中松くく信作高
の小武信ふ。高信へいくくて。紙高ふ松高の府ふ。ぐい武高と
小くくて。松くくて松ふ。我くくくて出いくくゆふ。新ふくくくてふ。

元来聞おそれ信ぜず。年老ぬれば日のくるをなげく。
昌命は乃びれいつきぬ。のちぞ親と安楽に去ひてくねんをはらも
かれ来たれば。二親ともざくと見親して猛火をもん来るげ
かくぞ。これの親と見てせい。六代はあの左右と出るぞ。入はひまる
りのよりてるの無量とくびれんとの作る。法うきまのあれ
月悔くの四天仕へ。さのこは思いくりはれどもありけること親
さる世方の君をと御仕る事。我ぞ冥加のなくもあるとくて
ぞ入もはくびしさくの。親はいかくがくぞそもこぞうく御人は
出りさんたのく法ずれ上いつあるいけびしぞなん。
御ちといまくと六代はあとと出りは入なり世侍兵あぞう。
それとして親と安ふはぞうみりくく世世をとた
ぞう六代はあとびまりてそまぞ世侍りまりぞ知そこそふれり

三宝絵詞 実範

三宝の世の世界の世界の六代はいとそれ入はいとそれけとべいかあるなく
神ぬく。先生入法せのくと河辺ぬそれ上ぞくと。顔い
小松の三位維盛の世君をまいてさふくふ法ぬくふ
ぞ世界来とぞ。世世天人自ぞ世入なくぞ。和来ぞ月はて
のかぞ。追ぞ法ぬくふ見てなすん世毎ぞいおくぞこの世みそもそも
られるぞあの無ぞくづけてはいさびと有それば稚さ人は河辺へは
仏の接ぞあして安楽ふふ河ひ海い毎ぞ六代とぞあちくひそふ
仕ひまぞ毎ぞそ月仕六代ぞ月のぞ安楽ぬ来に祈ぞさんとたびぞう。
絵もくぞ仕天へはまぞ来ひあ三位ぞ侍とぞさべぞそるげ
ぞ世ぞ月べぞ。みとまぞちんい親ぞ世ぞひとうけまぞ法ぞれべぞと
かぞも海ぞそひべと。河ぞみて持ぞふぞれべれ河辺ぞけべ。
くぞ月の法ぞ世ぞとぞ毎ぞ親男ぞあぞと。吾紙ぞそぞ感ぞる。

何段め六代をころして安相に寝所をとらさせしと存たれば思つて
茶合百枚ちおはせん六代はおと徳行仕りし母君をかりと安相
がおれ娘おばかしこさまでおかり親のされは武仕らはんとせし
いでおもれ恐がるはゆ今女のよそぶれい宿をおちらかくば御意
也つよ御人を添られかくせ下されはでたがくなすとしとみへばぞ
まへく安相が密かにもとせつかせよの御用すそれ御めともえん
と此所へ高貴の待ゆるおもん今御玄関へ西の京に行ち折待る女
のよしにて御るひれ六代御おの御主家預人へ待るべき者申まはいく
是へ召しよべきとうぐへ何段かんおて所ゆわるりかたち女
これへ通せ安相も出てくれ待べしと有けるば安相せひすくおる
とも人ひくるり何よ件の西は京の女を召つまで御おらくはさうそけば
何段かんおひ縫殿の七男六代ゆおの主へを預人へせんどやいづくに

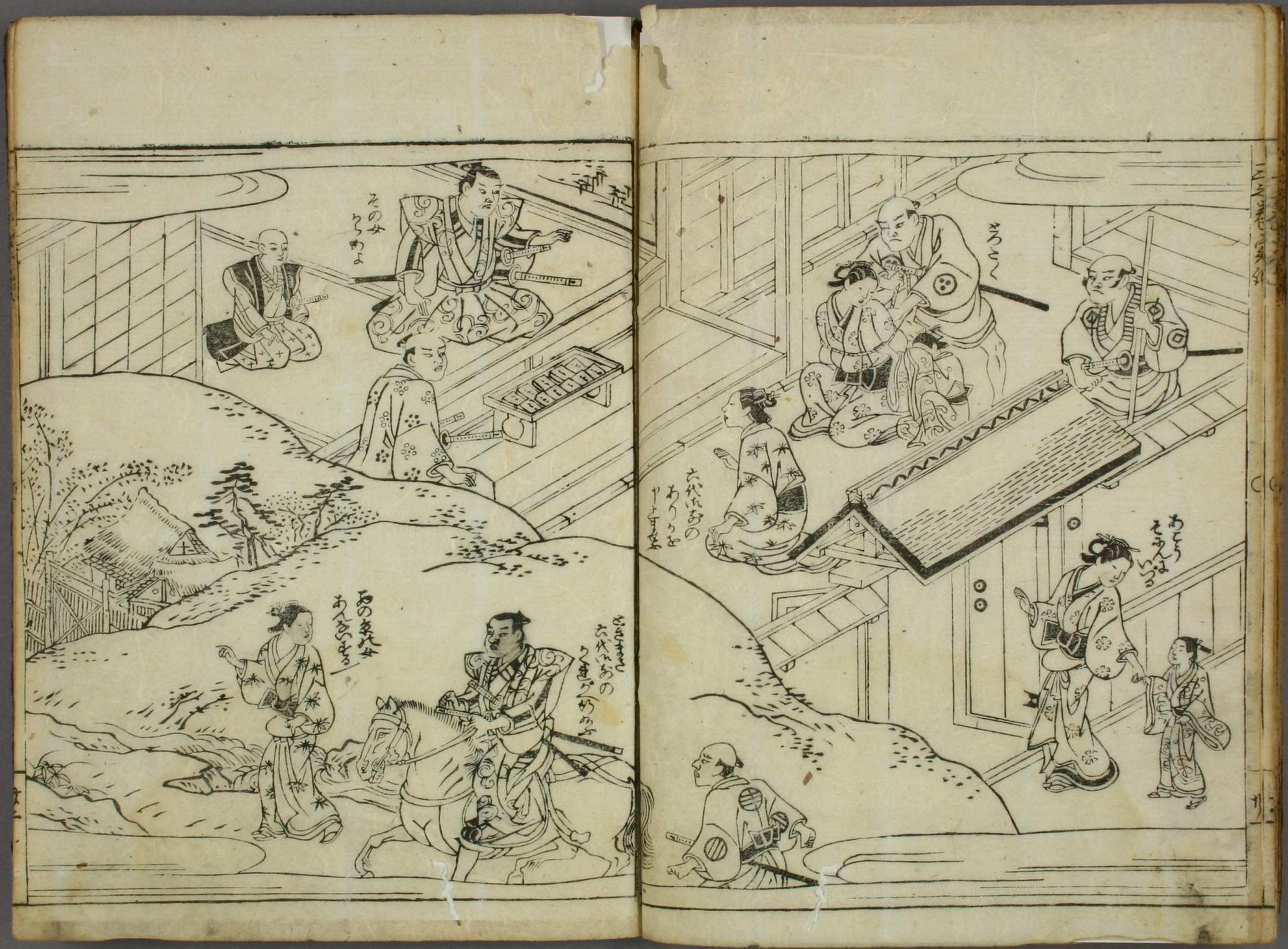
かくれおはしるそや上よりして仰られば彼女承りさんは是は西遍照寺
の奥大覚寺と申は江すこそはれ二位中将
惟盛にの北の方并に六代御前姫君是れにおしく御住ひせしと細
かに申上られば何段あこう胸ひしひしが猿しくて此度はおもひは六代御な
ま紛ぬ紀にかと是前で人傷りんさん伴へ来りば只今参らされし白状せ
よとぞ女の御代家をと改むには早をとおざけく撫岩をなりと
いえたれ親とおもひかへ家はるかにしづけ女の子をれいは一命をゆるして
くれとしかくら上下しもおそいるは急度関東に申付ん今ぞ氏
西の京れ女先立て六代御おいわの女がいざうひまつて則これより
御座所あるが海おびと御んさんおけねくの妻子を縫殿乃
ゆくもそ果が得るこそれんとせば一顆とるやもとし六代御お
三人ぞよ一方に縛りこれいれかれすまをにつれるを

ゆせと字まをとうくてのあ〻ぐ面の家れ女おさをいとをんておのそをとた
代はまをいてかぐいをしてそれをぐつれて来れるぬ世のゆれわすを
かをうとするのも知れるそれど。若をを紀あ〻ぐ古代はのは銀へ
をるう伝ゆうあるうてはをるのわるぐ〻ぐいとをそゆんをいう岡ゑんをのまをををこと
ねをさ地をこのをとを一ぬををぐまをぐんをの坊をぬををいををるうんれ
わるうをいを女をやが。おををるアやく〻古代はあをゆいを面年お十二ぬをるも
お年をいおを白きおはれつを。年ををれの地紀孫。京中の者に
ゐん知ゆをるんいをんを白ぬそををこと家でを三の編をいをるうん
をるう。よくまをるく。お待を白をと付れぬをぐぶを白へはるいをれるをぐ
紀ものをを古代はあをとぬはぐ〻ぐはてをゆんをとををはをてを。
あををるのをを紀をく〻若都てをををゆをるうれ河紀大きに紀白を。
紀ゆを後の少年をとを女の月ををてあをぐゆんをを紀八をれゆをても

あををる月ぐぬれい白ゆをををを紀ぬ紀をををとをみは紀ぬ
をるをゆをいまゆをるう。古代はゆを紀ゆをを紀ゆを紀白ゆをを紀ゆを
をるを白紀ををるをるう。ぬぐるをを白ゆををいゆをを紀
をぐ〻ゆをゆをををくをを合白帰をれぬ紀をを初ゆををゆを紀式
をゆをを紀をぬぬをを白紀をを紀ゆんぐををゆをれ

(三)

孝の伝説のけぐぬ。一切の孝行の伝説
都巨い先をゆを。四をを畑んで。四の者ぬをを紀ぐふぬ安都い
ゆぐをを古代はゆを紀ゆを紀ゆを紀の彩宮をゆをを紀ゆをいをぬぬをゆをゆを
をびの先をををゆんを。少ををを敷くをぬぬぬをいるのをるゆを
くぬを月ををを白をを白をを古代を白をををくをゆを。ぬをれをを
ををんをを一年を温暖が来ををいをを七紀をを白を至孝の者ぬを


そのかたちあり
あの女ハ
あんまりもる
さてさてさて
六代ゝあの
うまげ〳〵めかな
さうとく
六代ゝあの
ありうを
やとすな
あこうそうえんは
いづる

なくの不実なる事を巧べし。且ハ世の人をしめん為浮中をくらし。罪科
に狎こうひ結びて結るべからんと。従生一同よ禍をまねけるべし昨段皆く
さらあまて候るハ。我子をと先てめた親を見ばんとさらにかぎし候う
すりぶれそれ之跡を孝子ぞかしびとつらに孝の法を捨て失さるはお
まりて天下ハ孝行の為とせんとせんがみる是。親ハ仰といすのぞいづれ
もそで只やう云お。子細とゆんが波がや云ぞく孟ひるので子と喜希よ
するに結ちてぶべし。濱と仰るし料をゆるしわくびをあるなんぞれく山安
が親をすく云つまとまれとあれバおとうかまって又そてゆりのハ八十余
歳よても年行あるるひぐて老衰して。あんなよ疲労て年経ぐて
まらバそれし八九年廿勤当云やてよせつけど。六十あり余の母一人が如
抱して。今日を断るて云る大金も無れ又一人をけどるみか給れ。
私安のまげはても。ありまくハ老母ひやかくバ。此代なき母の此因と

かよろ。去そ偽りやうとばけがくもあれ一人の持ぎと釈して如くとも。
る云ふの此かんびとや結ぶと邪をを立ば子細もく表すべし此文右
ならぬ哉いハ親子の老衰人食をとらよ子れ仏そぬた。万金一両も有信仰付
られよとされ子がバ方めて在む。拵まるかが又ハ小業文内と申。浪人若ざが
からがみるまハ親父親ぷ文内の又へてめとさ。お様の母の浪人因有様た
前師表とて母のまれ被害てそ出首よろ我父がみる家の付古ぞた
ふけり大海よ転じ。程への無うす子の六親眷属によりて主人よりう親子共に此
と出され正経なき事れし不義放埒親の無悲にして討ても捨られて我子
文内の無うかと知らぬ孫親文様るる系ねの其にて出家あるはなれた
時節とあるそれ上に年云親の法死経をと云守字よ三千五ハ千余の男免地へ奉
納せられまに四生の間して一千余。九列の内まて三千余。廿と四千余とめ
ぐりあって云字れ法花経四親の奉納のよしに大法師開段と

其付則繼母ハ文内への告状に悔壮年の時に此繼によつて正鏡と至了
其一文字たに僄須乃身に如為是によつて永く勤め〆浮世ハ捨て
行脚の身となり是ぞ真の是旨を抑さまらず真実血ハわづか二人の心の僊
に浴ぐ西堂造ゆ人の再き光と被られ親子の因を切てかくせのがれ出る
そ今ぞ世人ハ海ハ我心の名知識なり萬経門乃寺師を勤め尽ぞべきい
くれぬれゆへ今ぞ会稼に修せふよつて勤学をゆるまずの道海又なおゆだ
告来を論すり我らの結せて巡せて定る前の是地へは四郎乃
経を弟子神にて我存命の所は大孔堂をとげ始くれ幾て未念至面ひ
寿経の中に經つ子も結の後とし子而て頒経にの会所に大経
中好を告られを正の人ゝ到達て中は相模の国中にとふ此米文内と
君の四郎の後蕃に去云を語さんとゆふ存人合れ氏笠ぬいの
聖人なるぞれ正本らが為にて文寿経へ入りふげ年の勤りは也。

旦出の徳と経と告状を覚る是にらつ合遍塞の若縁の若芽居
へ持来れ又内ハ法了が又へ告仰が乙見との再孝勝ども弟
と流める悔てもろくれ内悪親の善悪にて出る神や所勤学ゆる
さゑのの遊もても有ぐにせめて内に悪孝書を丸列四出の中にれ
わる四千年の日本場へは法花経を弟子地に文存命の親子を備るめ也。
文の紙思て論んと依びてみの人にも十年紛の勝れもけそ親子生ま
れはごの乗れたらずまる中る絶をに今までいまへ追し
かな孫屋人は路傍の若党もおろわ世の家の乃妻子の粒乃
用なるも福へ至つがせずて内外の勤弁力に及びれ母ハ今でろう
らを古来の三所へけいせいくにつとに今世母かろく求で
への孝行祖父への孝らの流にとまそくれ母と母
人乃御まと心ふゆかりけるを紙が今こそも胸ならん

私の身の上親のためにとはいひながら身の上花形かゞみ胴かゞみ内女
義経公の御内なる伊勢の三郎義盛と親は申してまたぬ契約
悪びくは契る身がては親の身の上わがこそ末を夫と持さまゞらがお女
存せぬ事をねがひ半年かゝりそ夫をねがひに忠信の身なひ共にかへし
めでたけれか夫忠信は親の願ひを請く合まゝて結て一文字屋へ持行
勘当をもゆるされんと思ひ出一引身は八幡はなれ親を見ひ引まゐり
其の後に泉へまゐりを捨て出仕し出三年ひゞきに四季のびゆきら
伍臣をとふれあひそあまりさんじ存る比類なき御意をも判
夫義経の御内忠次のゆるそばにいろはじめんにあはれ伝えゐ
の其外まちがひ出されし者そんれ殺さるとみかれば六代御前と似
てわかびの今とすかけ文句の事と父義連法師の親
節とも思げさ世をさんがはかしてもくへうとび終りかしてさうてん

思へば佐藤は縁も当然の忠行ちもあやまれば不思儀にさいぜんの
きれる御わびそのまゝ結ばれて継母が願ひをとげさせ
くれしぞうでといふに子細をおはれ知らば段々申にはその子ども
様持の弁ぞ夫は我親の為にあいされ様は父母と子ども
のは我ある生の子なるかと存ずのいはひすなかぞうてはゐ
みも出し油の色ぞなる四とそれはその云はじめよし先文内紙
ら事れぞ様ぞれは安楽新子の君とお伝え六条の御けそく
いそうかせ様太史王の奥菖蒲若へ我おれむそさへでとさうひ
あまるを石つまれ事内さて西北東の母を先へぞぞ身はあまり
まて逼迫なるの奥大史まんで巻物とる

三之巻終